

次号予告

特集=P T・O Tにおけるリスクとその対策

運動療法におけるリスクとその対策.....	東京女子医大	江 原 定 吉
——小児の場合——		
運動療法におけるリスクとその対策.....	北村山公立病院	駒 沢 治 夫
——成人・老人の場合——		
物理療法におけるリスクとその対策.....	九州リハ大	和 才 嘉 昭
身障作業療法におけるリスクとその対策.....	水俣湯之児病院	池 田 俊 雄
精神科作業療法におけるリスクとその対策.....	花園病院	関 京 子
心疾患のリハにおけるリスクとその対策.....	久留米大	高 山 一 成
脳卒中に伴う心疾患におけるリスクとその対策.....	都養育院	上田 慶二・他
呼吸器疾患におけるリスクとその対策.....	東京病院	古賀 良平・他
とびら むんてら.....	虎の門病院	丸 田 和 夫
Q and A	A: 阪大病院	武 富 由 雄
	Q: 大阪府盲学校	西 本 東 彦

編集後記

9 卷 12 号, 今年最後の号をお届けする。来年はいよいよ 10 年を数えることになる。編集子として感慨多し。

さて、とびら氏が強調しているように、理学療法、作業療法が科学的理論に裏付けた臨床学とならない限り、学問として、治療学として医学のなかで位置を占めることはできないであろう。そればかりか国民の福祉のために役立つ治療手段としての位置づけを確立することも困難になってくるおそれがある。

本誌の果たす役割り責任はますます大きなものになってゆくであろう。

精神医療と O T が特集されているが、O T のみならず P T の専門性も今後きびしく追求されていく必要がある。

小平氏の音楽療法は長らく外国で勉強されてきた同氏の論文であるが、今後の活躍

が大いに期待される。御健闘を乞うところ大である。

展望として矢野氏の身体標準値とその読み方は全くユニークな論文であって、読者氏にとって大いに参考になるであろう。

研究と報告に採用された論文が 3 本ある。1 つは運動学に関する基礎的研究であり、他は歩行中における床反力についてであるが、今後このような基礎的な研究が続いて投稿されるよう期待する。

第 10 回 P T 学会において発表された演題について学会参加者による印象記がまとめられているが、その内容は前回よりも著しく改善されている。海外だよりとして木村氏による詳細な英国の治療器具の紹介がなされているがその態度には敬服したい。

来年 10 歳を迎える本誌の一層の発展を期待しながら、読者氏の御健康をお祈りします。

(松村 秩)

<編集顧問>

天 児 民 和
九州労災病院長
五味 重 春
府中リハビリ学院長
砂 原 茂 一
国立療養所東京病院長
津 山 直 一
東京大学教授・整形外科
水 野 祥太郎
川崎医科大学学長
(五十音順、以下同じ)

<編集委員>

上 田 敏
東大リハビリ部
荻 島 秀 男
都養育院リハビリ部
佐 藤 馨
神奈川リハセンター
鈴木 明子
府中リハビリ学院
谷 岡 淳
自治医科大学
田 村 美枝子
清瀬リハビリ学院
寺 山 久美子
都心障センター
松 村 秩
都養育院リハビリ部

<編集同人>

明 石 謙
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
大 橋 博
鎌 倉 矩 子
紀 伊 克 昌
小 林 夏 子
駒 沢 治 夫
佐 藤 剛
田 原 澄 彦
富 岡 詔 子
奈 良 勲
藤 沢 しげ子
藤 本 欽 也
前 田 守
松 本 妙 子
矢 谷 令 子
山 下 隆 昭
横 山 巖
和 才 嘉 昭
(担当 細田・松橋)